

平成 25 年度第 2 回外部評価専門部会 会議録

日 時 平成 25 年 11 月 6 日 (水) 13 : 00 ~ 15 : 00

場 所 市役所本館議会会議室

議 題 (1)部会選定事業の事業概要及び内部評価内容の説明について
①担い手の育成・確保
②新規高卒者の早期求人要請
(2)市側選定事業の最終評価について
①元気な十和田市づくり市民活動支援事業
②集客力を高める食・農・自然観光の連携

出席者 高井伸二部会長、小林博子委員、三國節夫委員、
立崎享一委員、國分隆子委員
(欠席委員 升澤博也委員)

担当課 農林畜産課：白山課長補佐、佐々木主査
商工労政課：前山課長、佐々木課長補佐、三瓶係長

事務局 田上課長、沖澤課長補佐、工藤課長補佐、成田主任主査、鳥谷主任主査

会議内容

(1)部会選定事業の事業概要及び内部評価内容の説明について

- ①「担い手の育成・確保」について、農林畜産課から事業の概要等に関する説明があり、下記のとおり質疑応答が行われた。

質疑委員	質疑と応答
立崎委員	○H26 から、経営移譲についての給付はどのようになっていくのか。 ◆現在時点の情報では、親からの経営継承や、親の経営から独立した部門経営を行う場合も対象となります。ただし、所得が 250 万円以上ある場合は除かれます。 ○部門経営とは。その所得制限のハードルの高さは。 ◆例えば、米・野菜・畜産のそれぞれを一つの部門として考え、親は米部門、後継者は畜産部門を担う、という形をとることです。所得 250 万円というとなかなか農業では困難で、畜産で大きくやる場合は別と

	<p>して、稲作だと 10 町歩やってもクリアできない数字です。</p> <p>○実際、まったく農業経験のない人の参入はあるか。</p> <p>◆去年の実績ですと、1 組の夫婦がありました。そこは、畑を借りて野菜を作って、それを自分のレストランで出しました。そのような方も給付金の対象です。</p>
三國委員	<p>○この事業のルールは、どこの市町村も同じか。</p> <p>◆はい、そのとおりです。</p>
國分委員	<p>○先ほど、稲作だと 10 町歩やっても所得 250 万円はクリアできないという話であったが、それだと農家は生計を立てていけないのはいか。しからばどのくらいの面積があれば生活できるレベルなのか。</p> <p>◆基本計画ですと、家族 4 人で所得 450 万円、これがサラリーマンと同等という目安です。実際、農家は、所得 250 万円ならばなんとかやっていたレベルです。</p>
立崎委員	<p>○十和田市のみならず全国的な課題ではあるが、もっと積極的に後継者を育てていけるように要望する。さらにもっと要件が緩和された制度になれば、十和田市はもっとよくなる。</p> <p>○減反政策の転換の話や、TPP もあり、この国の農業政策はどっちへ行こうとしているのか、なかなか難しいと思うが、十和田市の活性化のためにもうひと頑張りしてほしい。</p>
高井部会長	<p>○この制度による成果の表し方として、個人情報もあって難しいとは思いますが、「どのくらいの規模で、何を作付していて、インカムがどの程度」とか、また、この制度による給付の結果、受け手の農家が最終的にやっていたのか、というところのデータがほしい。これがないと、ただお金をあげただけになってしまうおそれがある。</p> <p>○十和田市がもっと積極的にやるのであれば、市の作付面積と作物ごとの単価の関係から、農家の所得を上げる戦略的な作付の組合せを分析してもらいたいと思うし、農業機械の集約も含めて、「オール十和田」で取り組んでほしい。</p> <p>○市全域の農地マップを作って、米はこのエリア、畑作はコチラ、と集約してしまうのがよいのでは。</p> <p>○もう一步進めて戦略を練るべき。ただお金をあげてなんとかする、という時代ではない。</p> <p>○TPP に関連して、日本は、原料を外国から買って加工貿易をしているのが現状、食糧も畜産もアメリカが握っている。今はいいとしても、人口が 90 億人とかに増えてしまった場合は、日本に食糧が回ってこなくなる危険性がある。東北にはこれだけの農地があるのだから、確か</p>

	<p>に国の政策のフォローというのも大事だが、十和田市としても高邁な精神を持って、「農業」が若い人から見てプライドを持てる職業にしていく施策を考えてほしいと思う。</p> <p>○あと、データの示し方はやはり考えてもらいたい。</p> <p>◆実は、人・農地プランにおいて、5000分の1の図面に農地を落とし込んでいます。</p> <p>◆農家の側には、農地を貸すことにまだまだ抵抗があり、農地の集約は、思うように進まないのが現状です。</p> <p>◆集落営農は十和田市に30あり、うち、法人化したものが3つですが、これらのほとんどが「米・麦・大豆」を作付しています。単価の安いものを集落営農でやって、にんにく・ながいもなど高いものは農家個人がやっています。日本の農業の仕組みは、個人のほうを集団よりも優先するようにできています。</p> <p>○市がイニシアチブをとって全体をコントロールするくらいのことのできれば一番良いと思うのだが。</p> <p>◆今ある30の集落営農を法人化させ、20ヘクタールをクリアして補助金を受け取らせたい、と思っています。</p> <p>○そのように土地をでかく確保しておいて、そこに高校生を就職させる、会社に勤めるような感覚で農業をやらせる、くらいの思い切った取り組みが必要だと思う。いったん都会に行った人もUターンで帰ってこられるし。十和田市には1万ヘクタールの農地があるのだから、かなりいろんなことができると思う。</p>
--	--

②「新規高卒者の早期求人要請」について、商工労政課から事業の概要等に関する説明があり、下記のとおり質疑応答が行われた。

質疑委員	質疑と応答
三國委員	<p>○十和田管内の企業さんは、いつごろ求人を出してきているのか。</p> <p>◆十和田は、周辺地域と比べて早いほうです。</p> <p>○早い段階で十和田の企業さんが求人を出せば、この辺に就職したい若者もただちにそこを目指せると思う。とはいえ、辞める人が見えなければ企業も求人を出せないところもあるのだろうが。</p> <p>○9月時点で十和田管内の内定率は16%というお話があったが、これが最終的には100%となると思うが。</p> <p>○6月20日に求人票を出してもらえることを目指し、5月末とかに企業訪問を行ってはどうか。</p>
國分委員	<p>○十和田市の企業は、ほとんどが試験採用をやっているのか。</p> <p>◆実情は定かではないが、筆記又は面談で試験は行っていると考えて</p>

	<p>おります。</p> <p>○地元企業にいと、どうしてもサービス残業が発生していると聞く。また、大きな会社と小さな会社は雇用形態が異なり、小さな会社のほうの中には、あまりにも個人的（な会社）すぎて、社員がいろいろ感じになってくるそうである。そういう声の把握やそれに対する指導は市が行っているか。</p> <p>◆勤務時間や休みが不規則という理由で離職するケースがあるため、それを防ぐためにも、入社の前に高校生と雇用主が仕事内容や勤務時間を打合せして、理解し合ってから入社するように、という狙いでセミナーを開催しております。</p>
立崎委員	<p>○せっかく就職しても、高卒では3年以内の離職率が50%、これは企業と話し合っでなんとかひとつ、せっかく行政と商工会議所で働きかけをやっているのだから。</p>
小林副部会長	<p>○離職した方がその後どうしているか、追跡調査は行っているか。</p> <p>◆それはしておりません。離職した方は、割とハローワークさんに行ったりしているそうですが。</p> <p>○私もハローワークに行った経験があるが、そこの求人票は、資格がないと就業できないような事業所が多く、一般事務はほとんどない。</p> <p>◆やはり、資格のある人は優遇されますね。</p>
高井部会長	<p>○我々大学のところにも、臨時職員さんが働きに来るが、ワード・エクセルは必須、これができないと残念ながら雇えない。</p>
高井部会長	<p>○いわゆる七五三（*働き出してから離職率が中卒7割・高卒5割・大卒3割）に関連して、うちの学生たちには「自分に合ったものを探し求めるよりも、仕事に個人が合わせること。そうできるように自分を進歩させましょう」と伝えている。十和田市の高校では、そういった「仕事と人生の折り合い」みたいなものを教えることはあるか。</p> <p>◆市内の高校については、ジョブカフェ青森と連携して、事前の打合せをやっているとは聞いています。</p> <p>○この問題は、ミスマッチではなくミスアンダースタンディング。「自分に合った仕事」という誤った刷り込みが原因だろう。将棋の棋士などでも、好きで、かつ、天才的なレベルでないと職業にはできない。</p>
國分委員	<p>○資料中のインターンシップとは、これはどこで行われたものか。</p> <p>◆市役所を希望する学生たちに対するインターンシップです。</p> <p>○地元の企業に就職したい人たちのための、いろんな企業を2～3日でも体験する取り組みはあるか。</p>

高井部会長	○それは中学校で「トライアルウィーク」という形で取り組んでいる。高校生と比べてせっぱつまっていない時期なのだが、この年代での職場体験は、これはこれで有意義。終わった後はしっかり感想文を書いてくれるし、訪問先へのお礼状の送付など礼儀を覚えることにもなる。○中学生と高校生では、受け入れる企業側も対応内容の難易度が違って来るだろう。
-------	--

(2)市側選定事業の最終評価について

①「元気な十和田市づくり市民活動支援事業」について、下記のとおり最終評価が行われた。

高井部会長	○前回の会議では、学校のグラウンド整備など、本来市が行わねばならないものをこの事業の対象とすることについて疑問・質問があったところ。ただ、この事業の「市民協働活動支援コース」では、そもそも市のハード事業を対象としてある。また、まちづくり分野を対象としている趣旨に沿いつつたまたま教育畑のものが来た形、と理解できる。委員の皆様にもご理解いただきたい。
立崎委員	○この事業は継続してやるべきだし、市長肝いりだったと思うので、できればもっと額を増やし、幅広くやってほしい。
三國委員	○審査を厳しく行う点がちょっと。すごく上手にプレゼンができる人もいればそうでない人もいる。年配の方でも不利にならないように配慮してほしいし、市役所が積極的に関わって行って本人たちに負担のかからないようにしながら、大きくやってほしい。
小林副部会長	○こういう取組みは、あまりきちっとやりすぎないで、みんなで楽しく進められればいい。
國分委員	○私はこの間の報告会を見たが、みんな和気あいあいと報告会をやっていた。雰囲気あまりガチガチでもないし、すごく良いなと感じた。
高井部会長	○いずれにせよ、誰が何をやっているかを見せるということは、極めて重要。報告会をやっていただくのは結構だと思う。皆さんの意見を聴いた感じでは、この事業はこのまま継続していただいて、できればもっと重点的に、お金もサポートしてあげれば、というところと思う。

【評価結果】

○事務事業の方向性

現状のまま継続 2人

有効性を改善して継続 1人

公平性を改善して継続 2人

○各委員のコメント（外部評価表より）

- ・ H23 年度から始まった事業であり、全体像の評価の後に重点化等を考える。
- ・ 市民活動を活性化させ、賑わいと、市民が輝くまちづくりを推進させていくために是非必要である。
- ・ 同じ団体が継続しないで、様々な団体に実施していただけるようにしてはどうか。
- ・ 申請される事業が収益につながるものであれば、行政が手助けする。
- ・ 申請、報告をやりやすい方法で。事業内容の公平性は必要であるが、柔軟かめに。

*当日欠席者（升澤委員）の評価結果（11/11 総務課受領）

○有効性を改善して継続

自力効果を指導し、過保護による成長をとめる。正しく誘導する必要がある。

②「集客力を高める食・農・自然観光の連携」について、下記のとおり最終評価が行われた。

高井部会長	○食の開発・ブランド化という視点から、皆様のご意見をいただきたい。
立崎委員	○とわだ産品販売戦略課は、食のブランド化のたぐいでは何に取り組んでいるか。 ごぼう・にんにく・長いもなどか。 ◆その課では、それぞれの野菜单品のブランド化を図っています。
三國委員	○食について、各飲食店に頑張ってもらっての開発なのか、それとも、どこかでチームを組んで開発をしてからそれを広げようなのか、どちらがいいか・・・両方かな。 ◆休屋地区のメニューについては、かつてはシェフを呼んで考案してもらった等を行っていたがなかなかそれが定着しなかった、というところですが、最近では、焼山地区のとあるホテルで、地場の野菜を使った料理を出しており、お客さんにたいへん人気です。とはいえ、それが他のホテル・旅館にはなかなか広がっていかない状況です。
國分委員	○女性は、オシャレなお店には行きたい。ちょっと高くても、オシャレだから行く。料理の工夫も、店の雰囲気も、オシャレな感じをどう作っていくかを考えていただきたい。
小林副部会長	○八戸のほうで、糖尿病にいい料理、というのがあって、東京からもお客さんが来るという。健康志向という観点で、そういうのを食べて、溪流を散歩して癒されるとか、そういうのを組み入れてみては。

國分委員	<p>○部会長さんのお話にもあった、夏場の避暑地としての滞在、これに健康志向をプラスすればもっといいのでは。</p> <p>○この前十和田湖に行ってきたが、あの廃屋を見てしまうとなんかガッカリしてしまうので、なんとかそこをきれいにする方法があればいいのだが。</p>
立崎委員	<p>○今年の春に国土交通大臣が来たが、そこからどういう動きになっているのか、まだ見えない。</p>
高井部会長	<p>○コンセプトとしては、長期滞在型の避暑。IT関係などが、休暇を取りながらセミナーをやってみるとかいう使い方もあるのでは。うちの学校でも打診してみたことはあるし、交通費が高くて滞在費が安ければそのハンディは帳消しにできる。</p>
高井部会長	<p>○集客力という大きな観点からは、食の開発の取組みもさることながら、観光地側の環境ももう少しなんとかする、ということで取り組んでもらいたい。</p>
高井部会長	<p>○続いては、観光メニューのスクラップアンドビルドという視点から、ご意見をいただきたい。</p>
高井部会長	<p>○冬物語も、厳しいとはいえ、やらないと来ないから、やめちゃうとダメだよな・・・</p> <p>○国内でも、これまでお客さんが寄り付かなかった温泉を活性化した事例とかがある。もう少し事例の研究をしていただき、十和田ならではの売りというところに絞って煎じ詰めていく、っていうのをやってもらいたい。成功事例を集めて、成功の要因となったポイントを書き出してブレインストーミングとか。</p> <p>○やめるわけにはいかない事業なのだから、基本的には、継続して取り組んでいただくことになる。難しいところだけどね・・・</p>
三國委員	<p>○3年間で100個とかの膨大なコンテンツになると、「とにかくやっちゃえ」になってしまうのは嫌だなと。数をクリアすることが目標になってしまうのは、避けてほしいなということ。</p>
國分委員	<p>○毎年同じイベントをやっていると、新しいものはなかなか出てこないと思う。その中で、企画する側も大変だろうが、いつものとおりではなく、何か工夫がほしい。</p> <p>○アンケートを取っては。</p>
高井部会長	<p>○今風のやり方だと、ユーチューブに載せてみるのは考えられる。そして、それと同じ映像を十和田市のホームページにも置いたり、四季折々のイベントの今年の映像も併せて載せてしまうとか。</p> <p>○その種のアンケートは、すでに興味がある人からしか意見をとれな</p>

	<p>いという欠点がある。新規に掘り起こしたい相手は、その人たちではないのでね。そういう掘り起しのなところを何とかしたいけど。</p> <p>○この課題は、難しいね・・・</p>
國分委員	<p>○観光にも、流行り廃りがあると思うが、廃れたものをもう一回起こす地域も結構ある。そこを視察に行ってくるとか。</p>
立崎委員	<p>当市は、十和田湖ばかりでなく、市街地の魅力発信も必要。</p>
高井部会長	<p>○建築の心得のある人には、美術館・隈研吾・安藤忠雄が全部そろっている地域って、いいのではないか。アメリカだと、シカゴがそう。こういうコンセプトもありかな、と。</p> <p>○とはいえ、近辺におもてなしの場所がないことは残念。しゃれた喫茶店とかもあればいいのだが。</p>

【評価結果】

○事務事業の方向性

さらに重点化を図る 1人

現状のまま継続 1人

有効性を改善して継続 3人

○各委員のコメント（外部評価表より）

- ・評価が難しい事業であるが、複数の指標で有効性を測定し、改善に努める。
- ・食の開発に重点を置きすぎてはいないでしょうか。観光に来た方への「おもてなし」も考えながら行ったらいいと思います。
- ・毎年の（同じ）行事としないひと工夫で、内容を充実させる。
- ・全体的な答えはないが、ポイントを細部まで聞いて、小さなことから改善してほしい。
- ・現状のまま、さらに内容充実を図りながら本事業を推進させていく。

*当日欠席者（升澤委員）の評価結果（11/11 総務課受領）

○有効性を改善して継続

有効な資産の活用、広報活動の展開、顧客安定のための周回路の整備が必要である。

その他 ①本日質疑応答が行われた部会選定2事業について、11月11日（月）までに事前評価表への記入と事務局への提出を依頼した。

②次回の会議は11月13日（水）午後1時から議会会議室で行い、部会選定2事業についての最終評価を行うこととした。